

「学力向上ポートフォリオ(学校版)」

～ 「真の学力」 育成の継続的な取組を目指して ～

＜本年度の学力向上基本方針＞

学ぶ力をつける授業の創造

- ①児童が主体的に学ぶよい授業、分かる授業
- ②基礎・基本の学習指導と自ら学ぶノート指導の共通理解と定着
- ③家庭学習と読書活動の習慣化

＜本年度の学力向上策＞

授業マネジメント——「川小スタンダード」の徹底

- ノートの規格を学校で統一し、発達段階に応じたノートを使用する。
- 全校共通の発達段階に沿った算数ノート指導と月1回の算数ノート検定を実施する。
- 授業の始めに問題・課題を提示し、終わりにまとめ・振り返りを行う。
- 授業の始めと終わりの挨拶を「起立・礼・着席」に統一する。(中学校区で共通)

基礎アップ——朝の学習、学習状況調査の結果分析、「家庭学習の手引き」による基礎・基本の定着

- 「読書タイム」や「読み聞かせ」(地域ボランティア)等を実施し、読書習慣を身に付ける。
- 課題克服シート等を活用したり、授業の初めの時間を復習に充てたりして習熟を図る
- 発達段階に応じた学習時間や内容、方法を啓発し、家庭学習の習慣づけを図る。
- 学期に1回の頻度で家庭学習ノートの「検定」を行い、意欲付けを図る。

授業スキル——学校課題研究のテーマに沿った研究授業と協議を通じたスキルアップ

- 「分からないを大切に、分かるへ」を実現するための課題設定、単元計画、学習活動の展開、発問、支援等を研究する。
- G・Sや特別の教科道徳など、新しい教科の指導方法を研究し、教材・教具の作成を進める。

アクティブ・ラーニング——特別活動の研究成果を生かした活発な授業の推進

- 自ら発信する習慣や意欲を生かして、さらに学び合う授業づくりを推進する。
- 学校周辺の豊かな自然を生かした体験活動や、異年齢集団による活動を継続し、多様な学びの機会を設定する。

＜本年度の振り返り＞

- 授業の進め方やノート指導などに関して、校内で統一して進めることができた。また、「小中一貫教育」の観点から、中学校における指導と一貫性のある方法をとることができた。
- 家庭学習の習慣化を進めるために、「日記・短作文」の課題を、共通して出すことができた。
- 学校図書館のさまざまな取組(「プラスワン・チケット」「本紹介」など)により、読書が好きな児童が増えた。学校評価でもよい評価をしていただいた。
- 教職員が組織的に対応することで、理解度や発達段階に応じた指導を進め、学習に集中できる環境を整えることができた。次年度以降も続けていく。
- 次年度以降、G・Sの指導方法をさらに工夫し、教材・教具の開発を進めていく。